

- 校務分掌部の反省
 - ・ 学期ごと
 - ・ 年度ごと
- 児童生徒の実態
 - ・ 各種検査の結果
 - ・ 日常の様子
- 保護者・地域の意見
- その他

令和2(2020)年度
日向市立東郷学園・坪谷小学校
小中一貫教育グランドデザイン

- 学校評価
- アンケートの結果
 - ・ 児童生徒
 - ・ 保護者
 - 学校の自己評価・改善策
 - 学校運営協議会委員の意見

目 標	知 (進路学習部)	徳 (生徒指導部)	体 (保体安全部)	地域 (教務研究部)
	学力向上	自律心の育成	健康・安全・体力に対する意識の向上	社会性の伸長 自己有用感の育成

具体的取組	1 朝読書を増やす手立ての工夫 ① 朝読書の取組 ② 家庭での読書活動の推進 (1日30分読書) ③ 読書通帳の活用 2 家庭学習の定着 ① 学習の見届け ② 「みんなたく」(みんなで児童生徒の宅習を見守ろう)	1 規範意識を高める指導の工夫 2 児童生徒会活動の活性化 3 基本的な生活習慣の徹底 ○ 身なり(ナ・ボ・ハ・チ・ツ) ○ あいさつ ○ 無言清掃 ○ 時間意識	1 命の教育の充実 ① 感染症予防・対策 ② 交通安全教室・わかたけ集会の充実 ③ 命の教育週間の充実や学期1回の避難訓練の実施 2 体力向上プランに基づく体力づくり 3 学校保健委員会の充実	1 東郷地区の人材や素材を用いた体験活動・交流活動の充実 ① まちづくり協議会との連携 ② キャリア教育の充実 ③ 防災教育の推進
-------	---	---	---	--

結 果	1 読書量を増やす手立ての工夫 ○ すぐに学力向上への成果は表れないが、9年間を見通した取り組みが必要である。継続していくことで、成果は出てくると考えられる。 ① 朝読書をする事で、落ち着いて学習に取り組めることから、学力向上につながる。 ② 学校での読書時間を含む、1日30分読書という目安があるのはよい。 2 家庭学習の定着 ① 課題提出の状況を複数の職員で見届けることができた。(中学部) ② 「※みんなたく」は、家庭学習に対する児童生徒の意識を高めることができていた。 ※みんなたく 児童生徒がやってきた宅習ノートの内容を、学級担任以外の教員も確認し、コメントによる評価を行うもの。	1 本年度は、職員会等で職員の共通理解を図った上で、各学級で指導がなされた。その後の変容についても、職員間の情報交換を密にしながら、対応を検討して指導を行った。 2 児童生徒会の役員は、各月の活動目標について、役員相互で意見を出し合い、積極的に活動することができた。また本年度は、行事等の開催に制限が多かった中、行事の成功に向けて工夫を行い、積極的に取り組むことができた。 3 職員と児童生徒会の各委員会が連携しポスター掲示や点検活動等を積極的に行った。また、東郷まちづくり協議会主催の「あいさつ標語募集」にも、全校で参加した。	1 命の教育の充実 ① 新しい生活様式に沿って、石けん手洗い、手指消毒、校舎内の消毒等を実施することができた。 ② 交通安全教室は、コロナの影響で中止となった。わかたけ集会は、密を避けるため、学年ごとに教室で行う形をとった。 ③ 命の教育週間では、登校班会や帰りの会等を利用し、命の大切さについての話をした。また、不審者対応の避難訓練は、コロナの影響で実施できなかったが、地震・津波の避難訓練に加えて「みやざきシェイクアウト」に参加し、防災意識の高揚を図った。 2 コロナの影響を受け、密を避けるために、集団での運動の機会が減った。そのため、思うように体力向上につながらなかった。(中学部) コロナの影響で、体力向上プランに基づいた活動ができなかった。臨時休業の際は、家庭でできる運動を紹介したり、なわとびカードを配付したりした。(小学部) 3 今年度、学校保健委員会を2回実施する計画を立てていたが、コロナの影響でやむなく中止した。	① 例年、児童生徒会が意見交換を行っているが、新型コロナウイルス感染症対策のため実施できていない。 ② 今年度は「出前授業」「よのなか教室」が実施できなかった。 ③ 地域との連携・協働した取組にはまだ至っていない。
-----	---	--	---	---

改 善 策	1 読書通帳の活用方法の改善をしていくことが必要である。	1 職員間で共通理解や密な情報交換を行うことで、指導の差もなく、より細やかな指導・支援ができたと思う。今後も継続したい。	1 ① 新しい生活様式に基づいて、今後も引き続き感染症予防を行っていく。	① 2学期末から3学期に9年生が「東郷まちづくり協議会」の方々との話し合いや、地域貢献に何ができるかを考える取組を行い、実践していく
	2 家庭学習の家庭での見届け方法を検討していく。(9年間を通しての見届け方法を考える。)	2 活動内容については、その都度検討を重ね、児童生徒が自己有用感を高められるような取組を展開していく。	1 ② 感染症拡大の状況に左右されることなく実施できるように、密を避けた計画を立てるなど、今後も実施可能な方法を模索していきたい。	② 今後のアフターコロナの視点で、学内や地域で完結できる学習内容を検討していく必要がある。
		3 保護者の学校評価で低い数値が見られるので、取組方法を見直ししながら、学級通信等で保護者にも伝える場を多く設定する。	1 ③ 次年度は風水害の避難訓練を行うことを通して、防災意識の更なる高揚を図る。	③ まずは児童生徒の「防災意識」を高めるための手立てから始めたい。 例えば、年間3回実施される避難訓練(地震・不審者・火災)の前後に、昼の放送などで簡単なクイズを出題するなどはどうか。
			2 新しい生活様式に基づいた新体力向上プランを作成し、取り組む。(中学部) 12月に実施した体力テストを基に、新しい生活様式に合った体力向上プランを作成し、実施する。(小学部)	
			3 学校保健委員会は、コロナの状況を見て開催の有無を検討する。	

評 価	A (2) B (2) C (2)	A (2) B (4) C (0)	A (3) B (3) C (0)	A (1) B (4) C (1)
学校運営協議会委員より	ア すべての基本は読解力だと思っています。読書量を増やすことは大事だと思いますが、読んだ本の数を増やすことに夢中になり、多読になっただけで読解力に繋がらなければ意味をなさないと思います。改善策としての読書通帳の活用方法の見直しは良い取組になると思いますが、東郷学園として9年間を見通した取組を行うことは必要だと思います。 イ 低学年で読書に対する意欲が感じられない。 ウ 一日30分読書の推進は、家庭でしっかり取り組むと効果が上がると思う。 エ 読書については、とても大切なことだと思います。これからも続けてもらいたい。 オ 読書は、きっと将来のものの考え方や感性を磨くこと、間接的に体験できることに繋がります。続けて実践してほしい事項です。 カ 「みんなたく」は良い取組だと思う。一人の目より複数の目で見守ることは大切なことと考える。 キ 「みんなたく」は工夫としては良いことである。 質問 「みんなたく」について、担任以外の範囲は？	ア 規範から大きく外れた行動をする児童生徒は見られない。 イ コロナ禍中での学校活動なので制約も多いためか、通勤の車中から中学生を見て、疲れた雰囲気で見守っているように感じます。規範意識を高める指導として生活習慣である、あいさつや無言清掃は「やらされ感」が出てくると思いますので、その行為が「何に繋がっていく」「自分の身になるのか」落とし込む教育が必要だと思います。 ウ 生徒指導に対して、いろいろと苦労しているようですが、今後も続けてください。 エ 自ら考えて行動を起こし、学級・学校を改善していこうとする意欲に欠ける。 オ 小学部は、あいさつにおいて個人差があった。中学部は、身なり、あいさつ、登下校の自転車の並列、良くなってきていると思います。 カ 遠くからも「あいさつ」をしてくれる子どもたちもいますが、こちらからしなければ無視をして通り過ぎる子と、まだ徹底とまではいかない気がします。私たち地区の方々も、児童生徒の皆さんに声かけをしていかなければならないと感じました。 キ 自分から先にあいさつのできる子どもが少ない。こちらから声かけすれば返ってくる。	ア コロナ禍中では思うような活動はできなかったと思いますが、取組を見る限り工夫をされ、対応されたのだと分かります。新しい生活様式の中で体力向上を図ることは、より一層の工夫が必要になると思います。東郷町域の光回線の整備も進むようですのでオンラインを活用する等の工夫も必要ではないかと思えます。 イ 大変な一年でしたが、頑張っている様子が感じられます。 ウ 朝の登校時には、班長を中心に決まりを守っている。 エ 朝の登校時に保護者の車で送迎が見られる。 オ 学校近隣の子どもたちの車で送迎が気になる。他の児童生徒のこともあり、指導することが望ましいのではないかと。 カ 最近のゲリラ豪雨などの風水害発生状況から、風水害の避難訓練を通して防災意識の高揚を図ることは評価できる。	ア 児童生徒会とまちづくり協議会との意見交換会を行い、連携してまちづくりを進める計画が、新型コロナウイルス感染症の流行で具現化できなかった。 イ まちづくり協議会は、新たなまちづくりに取り組んでいるので、今後とも意見交換会を行い、地域と繋がった行動による自己有用感の育成に繋げる。 ウ コロナ禍の影響で地域との交流、協働ができない年度になってしまったため、目標の活動ができなかったことは理解できます。今後は集まらなくてもできる方法、学校に人を呼ばなくてもできる方法(オンライン講演等)も考えておく必要があると思います。機材整備のために教育関係以外の補助金にもアンテナを広げる必要があると思います。 エ コロナ感染症拡大の中、何もできなかったが、計画を立て、それに向けて検討、対策をしていることはすばらしいです。地域のふれあいがなく残念でした。 オ コロナで交流活動ができていないので成果も出せないと思う。 カ 例年ならば、地域での活動参加をしていましたが、今年は新型コロナウイルス感染のため、地域での行事が中止となり、活動ができなかったと思う。 キ 防災意識については、今以上に高めたい。